

東京ニューシティ管弦楽団 友の会会員募集中!!

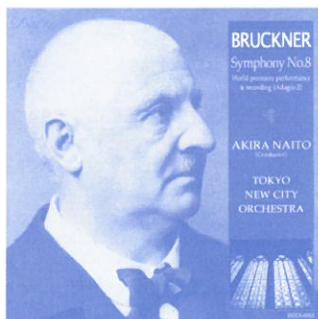
(入会金・年会費不要)

2006年4月より、定期会員制度を発足する予定です。
そのプレ会員として、友の会会員を募集しております。
お得なチケット情報をご案内いたしますので、ぜひ、この機会にご入会
ください。お電話、FAX、メールにて、またはホームページから事務局までお申し込みください。

FAX、メールの方はご住所・氏名・お電話番号をお知らせ
ください。お申し込みをお待ちしております。

※現在こちらから、定期演奏会のご案内をお送りしております方は、お申し込み
の必要はございません。

※いただきました個人情報は、当楽団の演奏会のご案内送付以外の目的
では使用いたしません。



音楽専門誌も
絶賛!!

音楽現代2月号…今月の3枚のCD 交響曲(推薦)
レコード芸術2月号…新譜月評 交響曲(準推薦)

ブルックナー:交響曲第8番ハ短調

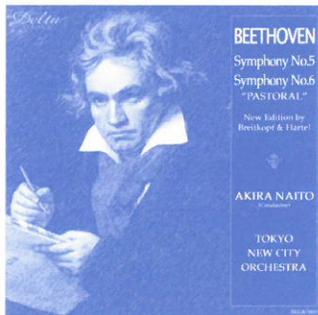
〈アダージョ〉世界初演&ライブ録音

CD好評発売中

定価¥2,625→会場販売¥2,300

第3楽章アダージョに1999年発見の
ブルックナー自身による改作稿を使用

内藤 彰 指揮 東京ニューシティ管弦楽団 (2004.9.4 東京芸術劇場大ホール)



「運命」「田園」はこう変わる!

日本初・新版によるベートーヴェン交響曲ライブ録音CD

〈新版によるベートーヴェン交響曲チクルス 定期演奏会ライブ録音〉
ブライトコップ社の新版を使用した現時点での唯一の録音!

一部旋律とハーモニーも従来の版とは異なります。是非お聴き比べください。

定価¥2,625→会場販売¥2,300

内藤 彰 指揮 東京ニューシティ管弦楽団 (2004.4.24/2003.11.26 東京芸術劇場大ホール)



音楽会のサポーター

より良いコンサートのために……。

アイ・エム・エス ●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル1F PHONE.03-3397-2292 FAX.03-3397-7728
URL <http://www.jade.dti.ne.jp/ims> E-mail ims@jade.dti.ne.jp

おかげさまで15周年

Tokyo
New City
Orchestra

Tokyo New City Orchestra



東京ニューシティ管弦楽団
●第40回定期演奏会●

2005年7月5日(火) 19時開演
東京芸術劇場大ホール Tokyo Metropolitan Art Space
主催 東京ニューシティ管弦楽団

ラフマニノフ Sergei Rachmaninov (1873-1943)

ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18

Piano Concerto Nr.2 c moll, Op.18

- 第1楽章 Moderato
 第2楽章 Adagio sostenuto
 第3楽章 Allegro scherzando

Program

— intermission —

ブルックナー Anton Bruckner (1824-1896)

交響曲第4番 変ホ長調「ロマンティッシュ」

Symphonie Nr.4 Es dur "Romantische"

国際ブルックナー協会版第3稿

- 第1楽章 Ruhig bewegt (nur nicht schnell)
 第2楽章 Andante
 第3楽章 Bewegt
 第4楽章 Mäßig bewegt

指揮台より —— 「ブルックナー交響曲第4番」ブルックナー協会版第3稿世界初演にあたって —— 内藤 彰

今回の第3稿は、数ある「第4番」の版の中で一番新しい版(1888年)に基づいて改良され、今宵世界初演の運びとなりました。それ以前にも種々の版が存在していましたが、どれも手書きの譜面のまま使用されており、出版には至らなかったため、結果として翌1889年に出版された版が初版とされています。この1888年版は、荒っぽく言い換えますと、ブルックナー自身が何回も推敲を重ね、しかも何度か演奏の場に立会うことにより、自らの作曲自体にメスを入れ、それと同時に、自らの希望にそぐわない演奏を出来るだけ排除したいと言う、当たり前ながらどの作曲家も現実になかなか叶えられない夢を実現すべく、弟子たちの進言に耳を貸しながら改良を重ねた、「4番」の**最終決定版**といって良いでしょう。その理由は枚挙にいとまがありませんが、主なものとして以下のことが挙げられます。

- ① 浅岡氏の解説にもある第3楽章のスケルツォの回帰時や、第4楽章の第1テーマの再現部にカット等が見られる点。これは従来の「ノヴァーク版」、「ハース版」をご存知の方なら即座に分かる大きな違いであり、異版間ではよくある相違ですが、勿論ブルックナー自身、カットした方がベターであると考えたのでしょう。
- ② 自らの気に入ったテンポを示唆する新しい発想用語やメトロノームの数字を新たに多く付け加えたりしている点。
- ③ 当時行われていた彼自身の気に入らない演奏手法を禁ずる注意書きまでも、あえて付け加えている点。
- ④ 強弱記号の大幅な変更により、自身の気に入った歌い方を強くアピールしている点。全く強弱が逆に変えられている箇所も多く、歌い方の根本的見直しにつながっています。
- ⑤ フレーズングを示唆するスラーを多く付け加えることにより、正しい歌い方が明瞭になっている点。従来の2つの版を使って演奏すると、ブルックナーの意図を捉えきれず、やむなく陥りがちでありました(結果的にブルックナーの意図に反しているかもしれない)曖昧な、あるいは無骨な(勿論悪い意味で)歌い方を正すことが出来るようになります。
- ⑥ 従来の2つの版には、音楽的に不自然で、指揮者を悩ましてきた箇所が多く見受けられますが、この第3稿では、その内幾つかの暗雲が晴らされている点。それらを見ると、今までの不自然な箇所は、版の違いと言うより、おそらく従来の版の出版過程で、どこかで生じた単純ミスがなせるいたずらであった可能性が大きく浮上してきます。

今回の第3稿は、「ハース版」が世に出る前に使われていた初版(1888年版;ブライコップ社等)と基を同じくしている関係で、大きく見ればそれらの版と同じとも言えますが、百年前とは比較にならない楽譜校訂上の進歩により、過去の版と比べ、数十箇所あるいは数え方によっては百箇所を超える改良点が見られます。

以上の観点により、一愚指揮者のたわ言かもしれませんが、今回の第3稿が、数ある版の中で、ブルックナーの意思を最も反映した**最終決定版**と私は考えます。

(この半世紀以上の間、レーヴェ他の弟子達による改訂(改悪)版であるとの冤罪により、主役の座からはずされていた1888年版は、最近の国際ブルックナー協会の研究により、その改訂の多くがブルックナー自身によるものと判明、今後この第3稿が「ハース」「ノヴァーク」両版を超えて、IV番で一番人気を博すようになる日も近いであろう。)



内藤 彰 (指揮) Akira Naito (Conductor)

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、神奈川フィル、名フィル、九響他、日本の多くの主要オーケストラを指揮。1990年東京ニューシティ管弦楽団を設立。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィア国立ベオグラードフィルハーモニーを指揮、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆より5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。その後1996年5月、ロシアの国立ヴェローニッシュ歌劇場にて、『セヴィリアの理髪師』を、1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて『蝶々夫人』を指揮。また2001年3月サンクトペテルブルグ・カペラ交響楽団、2002年5月ロシア国立ウリヤノフスク・アカデミー交響楽団に客演し、新聞各紙に大きく取り上げられた。2001年12月北ハンガリー交響楽団、2002年7月ミラノスカラ座フィルハーモニーのメンバーを中心とする州立ロンバルディア室内管弦楽団の北イタリアツアーを、2003年3月にはメキシコ州立交響楽団を指揮。2004年1月に行なわれた歌劇『蝶々夫人』の公演にて、作曲家プッチーニの強い願いにもかかわらず初演以来一度も使われてこなかった、本来決まった音程を持たない日本の伝統的「かね類」(寺の釣鐘の音、寺で僧侶が経を読みながら叩く大きなお椀型のキン、風鈴他)に、12音の音程を持たせ「楽器」として特注創作、それにより作曲者の願う本当の『蝶々夫人』の世界初演に成功し、音楽界の話題となった。これによりそれまで隠れていたプッチーニの大切な意図の数々が初めて明らかにされるなど、日本人の指揮者として、世界のオペラ界へひとつの大きな貢献をした。更に2004年7月には、イタリアのプッチーニ・フェスティバルにおいて、この鐘が使用され、地元の新聞・テレビに大きく取り上げられ、正しい『蝶々夫人』の演奏が世界に広く普及していく布石となった。'04年9月には、ブルックナーの交響曲第8番のAdagio楽章の新稿を、楽譜を起こすところから関わり、世界初演を果たした。この演奏会の話題は、多くの新聞、音楽雑誌を賑わしたのみならず、ライブ録音のCDは、「レコード芸術」誌他で、非常に高く評価されている。

現在東京ニューシティ管弦楽団と共に、日本で初のブライコップ新版によるベートーヴェン交響曲チクルスを継続中。新版と各種版との違いとその意義、そして、モダンオーケストラとしての古典奏法の取り入れ方にまで言及したプログラムノートは、その画期的な企画と共に好評を博している。本年12月には、これまでの伝統的な版を出版社自らが否定して作る新版(ブライコップ)にて、本当の「第九」の日本初演を行う。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及びプロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者。日本指揮者協会幹事。



稲田 潤子 (ピアノ) Junko Inada (Piano)

東京音楽大学付属高等学校ピアノ演奏家コースを最優秀賞、首席で卒業後渡仏。パリ国立高等音楽院ピアノ科、室内楽科ともに一等賞で卒業。パリ・エコール・ノルマル音楽院にて演奏資格を取得するなど研鑽を積む。全日本学生音楽コンクール、日本音楽コンクール、ソフィア国際ピアノコンクールなど国内外の数々のコンクールに優勝、入賞する。1997年モスクワで行われたラフマニノフ国際音楽コンクールピアノ部門で第3位(2位なし)を受賞し、注目を集めた。日本とフランスを中心としたヨーロッパ各地で演奏活動。フランス・ルーマラン音楽祭には連続出演。また日本でもリサイタルの他、NHKテレビ「ショパンを弾く」、NHK「FMリサイタル」「FM名曲リサイタル」、TBSテレビ等に出演。明るく当意妙妙なトークにも好感が持たれる。アリオン音楽財団企画によるコンサートでは「日本人離れした豪快さ」と好評を博すなど、現在最も期待されるピアニストの一人として着実な活動を示している。モスクワ交響楽団、ソフィア放送管弦楽団その他数多くのオーケストラと共演。2001年には東京ニューシティ管弦楽団定期演奏会でラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を共演し、非常に高い評価を得た。2002年春よりシリーズ“Imagination”をスタートさせ、ラフマニノフ生誕130周年記念連続リサイタル等、好評を得て更に続行中。今回は2005年12月13日(火)東京文化会館小ホールにて開催予定。昨秋リリースしたCD「TABLEAUX」はファーストアルバムにもかかわらず「絢爛たる響きを駆使した堂々たるヴィルトゥオーゾぶり」「繊細で華麗なピアノイズムを披露」と発売当初より高い人気を得て話題となっている。これまでに三浦捷子、松浦豊明、ジャン＝クロード・ベヌスティエ、ジェルメース・ムニエ他の各氏に師事。

稲田 潤子 ピアノリサイタル／“Imagination” Vol.5 2005年12月13日(火) 19時 東京文化会館 小ホール
 ドビュッシー、ラヴェル 他 ●お問い合わせ:カワイ音楽振興会 TEL:03-3320-1671

おかげさまで2005年4月をもちまして、
東京ニューシティ管弦楽団は創立15周年を迎えました。

これを期に、本年1月理事会を発足いたしました。

多方面でご活躍される理事・評議員の方々のご意見をいただきまして、
より一層皆様に喜んでいただける演奏をお届けできますよう努力して参ります。

東京ニューシティ管弦楽団理事会

理事長: 三善 清達 (評論家、元東京音楽大学学長)
専務理事: 内藤 彰 (東京ニューシティ管弦楽団代表)
常務理事: 杉山 繁三 (東京ニューシティ管弦楽団営業顧問)
理事: 家永 勝 (日本音楽プロデューサー協会代表幹事)
石田 一志 (評論家)
岡村 喬生 (オペラ歌手)
佐藤 幹一 (東京学芸大学名誉教授)
田中 千香士 (東京芸術大学名誉教授)
新実 徳英 (作曲家)
西山 邦彦 (元電通総合研究所研究主席)
松村 禎三 (作曲家)
下瀬 のり吉 (東京ニューシティ管弦楽団事務局長)

評議員: 神田 正美 (音楽プロデューサー)
齊藤 明 (オズミュージック代表取締役)
丸岡 努 (フレンドシップ・コンサート・ジャパン代表)
他

監事: 門田 公夫 (「リリカローゼ」代表)
〈五十音順・敬称略〉

東京ニューシティ管弦楽団2005・2006年定期演奏会

■第41回定期演奏会 2005年10月6日(木)19:00 東京芸術劇場 大ホール 〈曾我大介客演指揮者就任記念 2005円コンサート〉
指揮:曾我 大介 古箏:姜小青(ジャン・シャオチン) エネスコ:ルーマニア狂詩曲第2番 op.11-2〈エネスコ没後50年記念〉
曾我大介(映像/ビル大友):「時を制しようとした男」—アイルトン・セナに捧ぐ—(2004-2005改訂版初演)
城之内ミサ:「幻華」(2004) チャイコフスキー:交響曲第6番 口短調「悲愴」Op.74 前売¥2005 当日¥2500

■第42回定期演奏会 2005年12月29日(木)18:00 東京芸術劇場 大ホール
第九はこう変わる! 従来の誤りを修正・第九の決定版!!

“新ブライトコップ版による第九”日本初演
指揮:内藤 彰 合唱:東京合唱協会
ベートーヴェン:エグモント序曲(ヘンレ新版1998年)
ベートーヴェン:交響曲第九番「合唱付き」(ブライトコップ新版2005年)
S ¥7000 A ¥5500 B ¥4000



ソプラノ: 高橋 薫子
アルト: 永井 和子
テノール: 望月 哲也
バス: 西田 昭広

■第43回定期演奏会 2006年1月31日(火)北とびあ さくらホール
指揮:曾我 大介 クラリネット:西尾 郁子 “新春名曲への誘い”

■お問い合わせ・お申し込み:東京ニューシティ管弦楽団事務局 **Tel:03-5933-3222**

〒178-0063 東京都練馬区東大泉3-22-15 シンフォニー・プラザ2F
Fax:03-6766-3782 E-mail newcity@ymail.plala.or.jp <http://www2.plala.or.jp/newcity/>

●団体割引・セット券割引については事務局にお問い合わせください。 ●やむを得ぬ事情により、出演者、曲目等が変更になる場合がございます。何卒ご了承ください。

東京ニューシティ管弦楽団 TOKYO NEW CITY ORCHESTRA

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督・常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、オペラ・バレエとの共演、音楽鑑賞教室、レコーディングなど幅広く活躍。年間5回行われている定期演奏会では、ブライトコップ新版によるベートーヴェン交響曲チクルスの他、新しく発見されたブルクナーの楽譜を使用するなど、斬新な内容は高く評価されている。また、定例的に行なっているプロ混声合唱団・東京合唱協会とのジョイントでは宗教曲、オペラハイライト等毎回意欲的な内容を披露し、その高い完成度は注目を集めている。

オペラの分野では特に評価が高く、二期会、藤原歌劇団のオペラ公演の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、ルチアーノ・パヴァロッティ、カルロ・ベルゴンツィ、ファン・ディエゴ・フロレス、アグネス・バルツァ等世界で活躍するオペラ歌手との共演も数多く、聴衆や批評家のみならず、世界の著名オーケストラと共演している彼らからも、心からの絶賛の言葉を贈られている。

バレエの分野では、国内の主要バレエ団の他、英国バーミンガム・ロイヤルバレエ団、ミラノスカラ座バレエ団、シュツットガルトバレエ団、モンテ・カルロバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演にもこれまで数多く出演し、公演をサポートする誠実で質の高い演奏が毎回非常に高い信頼と評価を得ている。また、桂三枝、三枝成彰、中島啓江、江戸家子猫等を迎えるファミリーコンサートも、大変評判がよく、多くの方々から親しまれている。

●音楽監督・常任指揮者

内藤 彰

●客演指揮者

曾我 大介

●コンサートマスター

鈴木 順子

■事務局

●事務局長

下瀬 のり吉

●事務局次長

渡辺 晶子

●営業顧問

杉山 繁三

●スタッフ

青木 勝弘 鈴木 光子
木村 有美子 古屋 修
桐原 美砂

●ライブラリアン

古市 尚子



●Members

Concertmaster

鈴木 順子

1st Violins

徳井 えま
中村 朱見
中川 さと子
上田 博司
齋田 真紀
中 一乃
妙見 麻紀子
笹井 飛鳥
渡辺 田鶴野
川城 千秋
榎本 さとみ
老田 美郁
酒井 麻里子

2nd Violins

富山 ゆりえ
山江 洋子
高階 久美子
伊東 佑樹
荒巻 泉
栗原 りか
樋口 美佐子
大塚 杏奈
犬飼 素子
小池 真理
豊田 早苗

Viola

桜井 多美子
竹鼻 江美子
安達 いづみ
久郷 寿実子
松田 美奈子
田中 智子
光行 澄子

Horns

諸橋 恵子
原島 峰子

Violoncellos

森田 香織
大島 純
鈴木 康史
中村 美保
望月 直哉
富成 倫子
岡田 裕人
神谷 瑠津
星野 敦

Contrabasses

徳高 宏行(*)
渡辺 章成
鈴木 陽子
松本 広治
高橋 洋太
信友 裕子
駒井 朗

Flutes

井ノ上 洋(*)
丸田 悠太
佐藤 昌子

Oboes

徳田 振作(*)
富田 和子

Clarinets

西尾 郁子(*)
松元 香

Bassoons

藤田 旬(*)
齋藤 美和子

Horns

小川 正毅(*)
松浦 光男
大森 啓史
木村 淳
小林 祐治

Trumpets

中西 清一(*)
小林 史尚
平林 徹
小野 美海

Trombones

大川 真紀夫(*)
伊藤 吉隆

Bass Trombone

恵藤 康充

Tuba

松下 晃一

Timpani

藤城 佳之(*)

Percussions

辻本 洋一
石澤 学

Stage Manager

青木 勝弘
小林 伸生

*印はインスペクター

*Violin,Viola,Violoncello
インスペクター
山川 奈緒子